

「福島」の教訓 世界にどう発信

来月、長崎でパグウォッシュ会議 専門家に聞く



くろかわ・きよし
専門は内科学。元日本学術会議会長、東大名誉教授。福島原発事故の国会事故調査委員会委員を務めた。「平和利用」のセッションでスピーチをする。

黒川 清さん

福島原発事故・元国会事故調査委員会委員長

核廃絶などを議論するパグウォッシュ会議が来月1日、長崎市で始まる。会議では、福島第一原発事故を受けて「原子力の平和利用のリスク」をテーマにした議論も行われる。福島の教訓を世界の科学者らにどう発信するのか。原発事故問題にかかわり、会議にも参加する専門家に聞いた。

「広島、長崎、福島」となると、日本が何を発信すべきか。福島第一原発の事故から学ぼう、世界と共有しようとするプロセスを世界に公開し、

良いアイデアがあれば取り込んでいく姿勢が見えるだろうか。現在、汚染水は最大の問題。原発建屋などへの地下水流入を抑える凍土壁を造っているが、大量のエネルギーが長期間必要で、世界の専門家の間でも疑問がある。いかに早く処理できるか、手法とコストが問題だ。世界に公開しながら対策を進めていく中で、もっといいアイデアが出てくるかもしれない。公開しながら進めれば、国民も世界も納得するだろう。国家の信頼の問題だ。

(聞き手・岡田将平)

原子力の潜在リスク 理解を 事故対策プロセス公開して

鈴木 達治郎さん

長崎大核兵器廃絶研究センター長



すずき・たつじろう
原子力工学が専門。内閣府原子力委員会の元委員長代理で、現在は長崎大核兵器廃絶研究センター長。会議では「平和利用」のセッションで議長を務める。

原発推進、反対を議論するのではなく、原子力の持つ潜在的なリスクについて、これから原子力を導入しようとしている国、今まで以上に推進しようとしている国にきち

と評価してもらおうのが日本の責任。福島で何があったか、教訓を共有したい。福島原発事故で、放射線が原因で亡くなった人はいないので、専門家の間ではたいしたことなかった、という見解が出始めている。だが、何人亡くなったかという工学的な考えではなく、今も避難している人たちの人道上的問題を含めてリスクを考えないといけない。安全性は、原子力工

学の専門家だけではなく、文化とか倫理の専門家も含めて評価しないといけない。「想定できないことを想定する」ということをやらないと事故は防げないが、日本はやってこなかった。私は、条件がそろったら原子力はエネルギー源として貴重だという立場だが、万が一のことを考えると慎重にしないといけない。あの事故を見ると、オートマチック(自動的)に、原子力を使うべきだとは言えない。原発推進の人でも、ちゃんとリスクをわかってほしい。